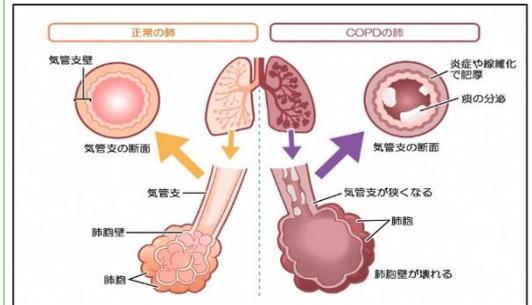


知っていますか?肺の生活習慣病 COPD(慢性閉塞性肺疾患)

○ COPD(慢性閉塞性肺疾患)はどんな病気?

COPD(慢性閉塞性肺疾患)は、主にタバコを原因とする有害物質を長期に吸うことで肺や気管支の組織が壊れて呼吸が上手くできなくなる慢性的な炎症性疾患で、別名「肺の生活習慣病」「タバコ病」と言われており、原因の9割以上は喫煙(受動喫煙含む)です。タバコの刺激で気管支に炎症が起こり、肺泡が破壊されて呼吸しづらくなります。喫煙開始年齢が若いほど、また、1日の喫煙本数が多いほどCOPDになりやすく進行しやすいと言われています。主な症状は身体を動かした時に息切れを感じる労作時呼吸困難や慢性的な咳や痰ですが、喘鳴や発作性呼吸困難など喘息のような症状を合併する場合があります。



*出典:環境再生保全機構より

○ COPD(慢性閉塞性肺疾患)の現状と今後



*出典:厚生労働省 人口動態総覧より

2017年のCOPDによる死亡者は18,523人でこれまでの最高値となっています。COPDは長年の喫煙歴を経て発症する病気のため、過去の喫煙率上昇の影響がCOPDによる死亡者増加につながっていると考えられます。また、COPDの推定患者数は530万人以上と言われていますが、治療を受けている患者数は2014年で約26万人と言われ、多くの方が未診断・未治療になっていると考えられ、早期発見・早期治療とともに、何よりも「禁煙」が必要となります。

治療を受けている患者
約26万人
(厚生労働省2014患者調査)

推定患者数530万人以上
(NICEスタディ2001)

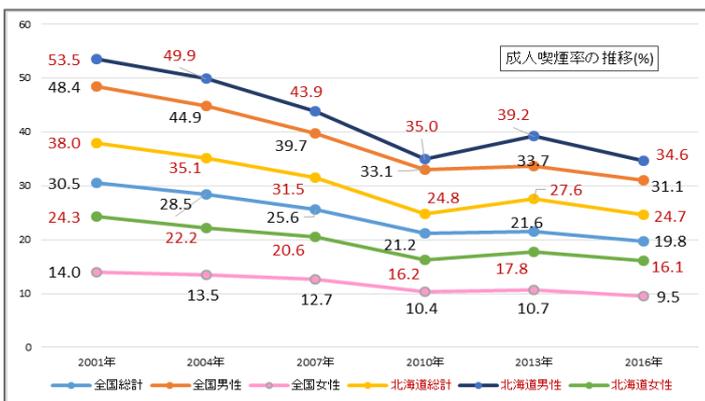
*NICE(Nippon COPD Epidemiology)スタディ

2001年に実施された40歳以上の男女2,666人のデータによる大規模疫学調査

○ 喫煙の現状

北海道の喫煙率は年々減少しており、2016年(H28年)男性34.6%、女性16.1%、総計24.7%となっているが、全国平均の男性31.1%、女性9.5%、総計19.8%より高く、男性が全国第4位、女性が全国第1位、総計が全国第1位となっています。特に女性の喫煙率が他の都府県より高い率となっています。(下図)

喫煙の影響はCOPDや喘息などの肺疾患にとどまらず、がんや循環器疾患、妊娠への影響など、健康に影響を及ぼす最大のリスク要因と言われています。受動喫煙についても、肺がん・虚血性心疾患・脳卒中、妊娠への影響から低体重・早産のほか、乳幼児突然死症候群(SIDS)との関連が示唆されています。また、喫煙を始める年齢が早いほど、総死亡率が高くなることからわかっています。



5月31日は世界禁煙デーです



「世界禁煙デー」は世界保健機関により、タバコフリー(タバコから開放された)社会の構築を目指し定められました。今年のテーマは「タバコと肺の健康」です。



出典:厚生労働省HP、日本呼吸器学会HP、環境再生保全機構ERCA(エルカ)HP

福利課健康支援グループ
電話: 011-231-4111(内線: 35-380)